

---

2004年度～2008年度  
授業評価アンケート  
調査結果報告書

---



2009年 11月  
名古屋芸術大学

# 目次

---

## 第1章 調査結果の報告

・ 調査の概要	1
1 調査の目的	
2 調査の対象	
3 調査の実施期間	
4 調査の項目	
5 調査の状況	
・ 回答数・構成比比較	2
1 学部別にみる経年変化	
2 カリキュラム課程別にみる経年変化	
3 授業形態別にみる経年変化	
・ 評価平均比較	4
1 学部別にみる経年変化	
2 カリキュラム課程別にみる経年変化	
3 授業形態別にみる経年変化	
・ 総合的満足度比較	6
1 学部別にみる経年変化	
2 カリキュラム課程別にみる経年変化	
3 授業形態別にみる経年変化	
・ 設問別 × 学部別 評価平均比較	8

## 第2章 調査結果の考察

・ クロス集計からみる「総合的満足度」と各項目の関係性	13
・ 重回帰分析でみる「総合的満足度」と各項目の関係性	16
・ 満足群と不満足度群との比較	19
・ 4つのグループ別にみる総合評価への影響度	20

## 第3章 調査結果の総括

・ 本授業評価から見えたもの	21
・ 経年変化から鑑みる調査項目の見直し	25

マークシート調査票サンプル	巻末
---------------	----

## はじめに

---

### 5年間の経過報告書作成にあたって

2004年度より始まった授業評価アンケートは、自己点検評価委員会、自己点検実施委員会が中心となり、本学の教育研究水準向上を図るためにこれまで5年間に渡って全教職員、全学生諸君の協力のもとに忙しい授業の合間を縫って円滑に実施することができた。これは本学の全教職員・学生がより質の高い教育を目指しまた望んでいることの表れである。

教育の内容や方法は不変のものもあればその時代によってまた社会変化によって変わって行くもの様々である。我々教員は常に時々々の学生の気質、ニーズを敏感に察知したり多くの難題を抱えながらもより質の高い教育を行い、より高い領域に学生を育てなければならない。

自己点検評価委員会はこの学生の内面の動向の変化があるのかないのか等その移り変わりを知るために、更に今後の教育改善とこのアンケートそのものの在り方また方法を練り直すためにも、この5年の区切りをもって、これまでの経過を精査する必要性を感じ、今後の資料としてここに5年間の調査結果報告書としてまとめた。

この冊子の中身は3章からなり、第1章は調査結果のデータの集積、第2章は調査結果の考察、第3章は調査結果の総括となっている。

自己点検評価委員会

# 第1章

## 調査結果の報告

# 第1章 調査結果の報告

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

この調査は、本学の教育水準をさらに高め、授業をより良くしていくために毎年実施している「学生による授業評価アンケート」について、2004年度後期から2008年度までの過去5年間を振り返ることで、経年変化による問題点や課題を把握するとともに、各担当教員に授業改善のための基礎データを提供する。

### 2. 調査の対象

2004年度後期、2005年度、2006年度、2007年度、2008年度分の調査結果を経年変化の調査対象とした。

### 3. 調査の実施期間

2004年度			後期	2004年11月29日(月)～12月11日(土)
2005年度	前期	2005年7月4日(月)～7月16日(土)	後期	2005年12月1日(木)～12月14日(水)
2006年度	前期	2006年6月26日(月)～7月10日(土)	後期	2006年12月6日(水)～12月20日(水)
2007年度	前期	2007年7月2日(月)～7月14日(土)	後期	2008年1月7日(月)～1月16日(火)
2008年度	前期	2008年7月7日(月)～7月19日(土)	後期	2008年12月1日(月)～12月13日(土)

### 4. 調査の項目

設問1 「授業の成果」	学生自身の「学び感(修得感)」の度合い
設問2 「授業の仕方」	この授業の組み立てや進め方
設問3 「授業の仕方」	この授業の分かりやすさ
設問4 「授業の目的・内容」	この授業は、シラバスと一致していたか
設問5 「教員の姿勢」	この授業に対する担当教員の熱意・姿勢
設問6 「総合評価」	この授業は他の学生に推薦できる授業か
設問7 「授業の目的・内容」	この授業の意味・重要性の理解
設問8 「学生の姿勢」	学生自身の「学習努力」の度合い
設問9 「総合評価」	授業全般に対する満足度

本調査の調査項目は、学生が率直に回答できるように無記名とした。また、調査項目を簡素化したり、回答の度合いを5段階評価のマークシート方式を採用して、答え易さに努めたり、授業内での実施を前提にするなど、学生・教員・授業への影響が少ないように最大限の配慮を試みている。なお、今回の調査報告では「授業の成果」「授業の仕方」「授業の目的・内容」「教員、学生の姿勢」「総合評価」の5つのグループ分けによる統計・解析を行っている。

### 5. 調査の状況

過去の調査で、学部別にみる有効回答者数および有効回答率の経年変化は、以下のとおりであった。

	2004年度後期		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	有効回答	回収率	有効回答	回収率	有効回答	回収率	有効回答	回収率	有効回答	回収率
音楽学部	10,866	100.0%	11,052	51.7%	6,210	53.7%	5,994	49.4%	7,014	48.6%
人間発達学部			-	-	-	-	2,441	22.7%	3,185	74.5%
美術・デザイン学部			10,720	35.3%	8,748	37.2%	8,956	38.4%	10,066	47.4%

# 第1章 調査結果の報告

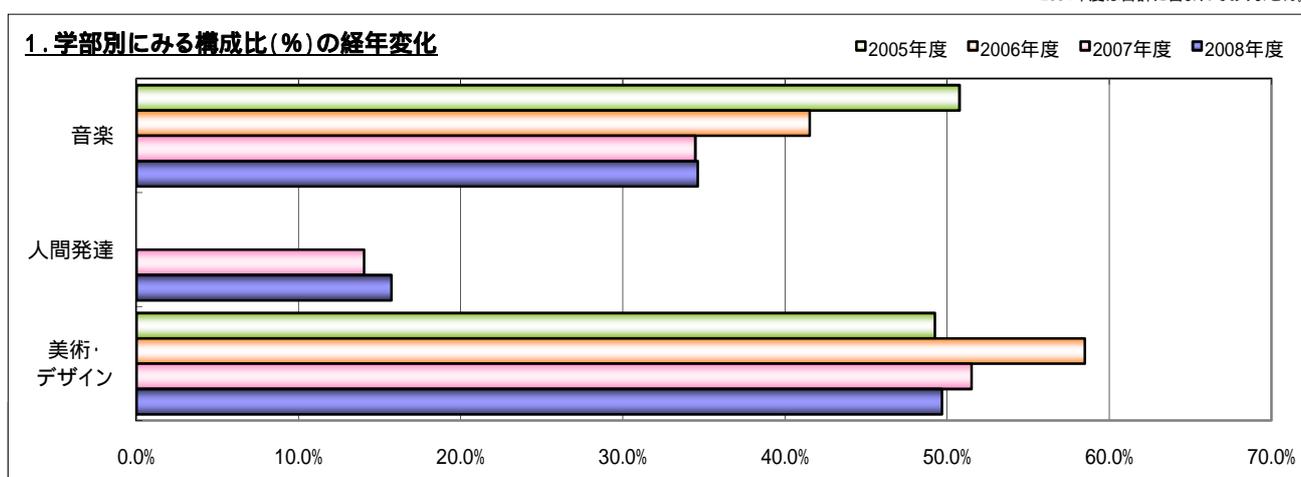
## 回答数・構成比比較

### 1. 学部別にみる回答者数(人)及び構成比(%)の経年変化

学部別での経年変化は、以下のとおりであった。

	2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度		合計	
	回答数	構成比										
音楽			11,052	50.8%	6,210	41.5%	5,994	34.5%	7,014	34.6%	30,270	40.7%
人間発達	10,866	100.0%	-	-	-	-	2,441	14.0%	3,185	15.7%	5,626	7.6%
美術・デザイン			10,720	49.2%	8,748	58.5%	8,956	51.5%	10,066	49.7%	38,490	51.7%
合計	10,866	100.0%	21,772	100.0%	14,958	100.0%	17,391	100.0%	20,265	100.0%	74,386	100.0%

2004年度は合計に含まれておりません。

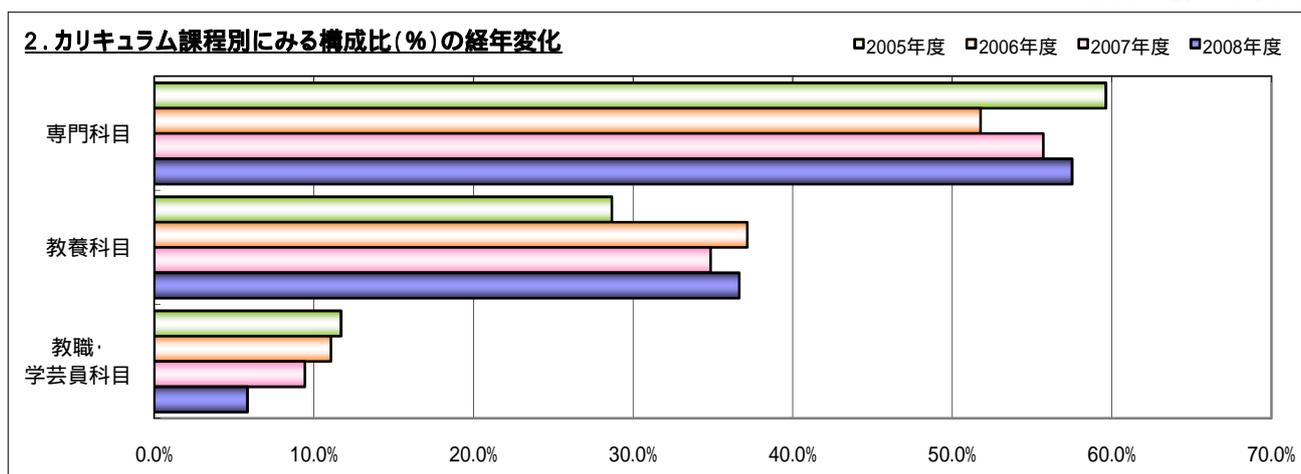


### 2. カリキュラム課程別にみる回答者数(人)及び構成比(%)の経年変化

カリキュラム課程別での経年変化は、以下のとおりであった。

	2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度		合計	
	回答数	構成比										
専門科目	6,492	59.7%	12,982	59.6%	7,744	51.8%	9,687	55.7%	11,655	57.5%	42,068	56.6%
教養科目	3,042	28.0%	6,242	28.7%	5,558	37.2%	6,063	34.9%	7,427	36.6%	25,290	34.0%
教職・学芸員科目	1,332	12.3%	2,548	11.7%	1,656	11.1%	1,641	9.4%	1,183	5.8%	7,028	9.4%
無効回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	10,866	100.0%	21,772	100.0%	14,958	100.0%	17,391	100.0%	20,265	100.0%	74,386	100.0%

2004年度は合計に含まれておりません。

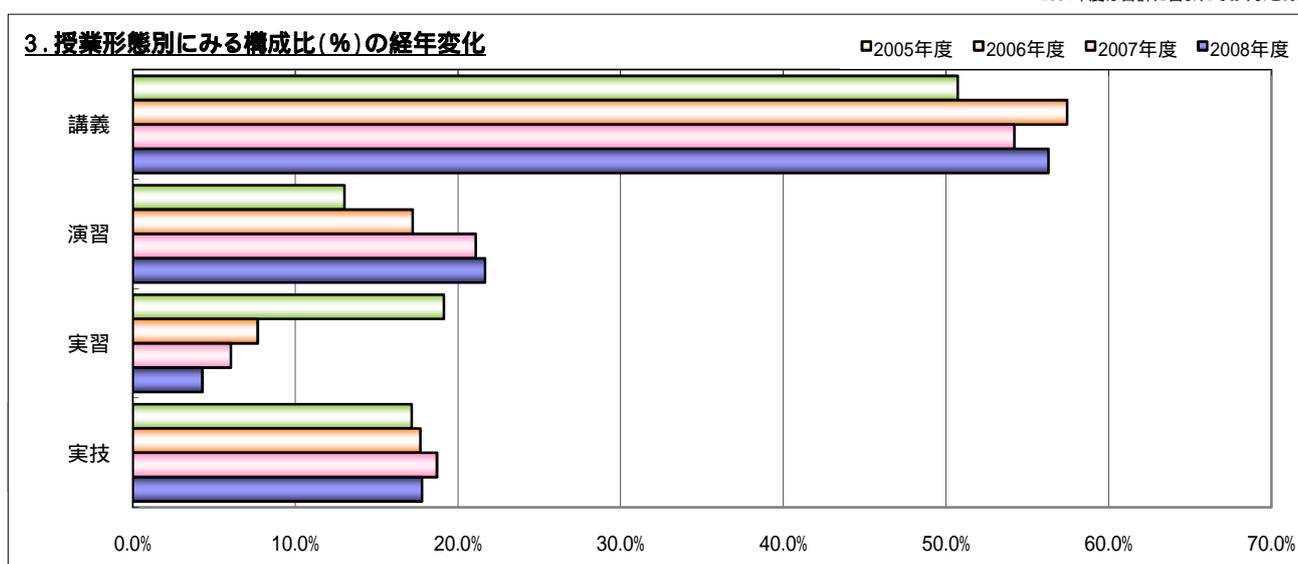


### 3. 授業形態別にみる回答者数(人)及び構成比(%)の経年変化

授業形態別の経年変化は、以下のとおりであった。

	2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度		合計	
	回答数	構成比										
講義	5,274	48.5%	11,042	50.7%	8,592	57.4%	9,426	54.2%	11,408	56.3%	40,468	54.4%
演習			2,833	13.0%	2,573	17.2%	3,665	21.1%	4,388	21.7%	13,459	18.1%
実習	5,592	51.5%	4,164	19.1%	1,149	7.7%	1,048	6.0%	867	4.3%	7,228	9.7%
実技			3,733	17.1%	2,644	17.7%	3,252	18.7%	3,602	17.8%	13,231	17.8%
無効回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	10,866	100.0%	21,772	100.0%	14,958	100.0%	17,391	100.0%	20,265	100.0%	74,386	100.0%

2004年度は合計に含まれておりません。



# 第1章 調査結果の報告

## 評価平均比較

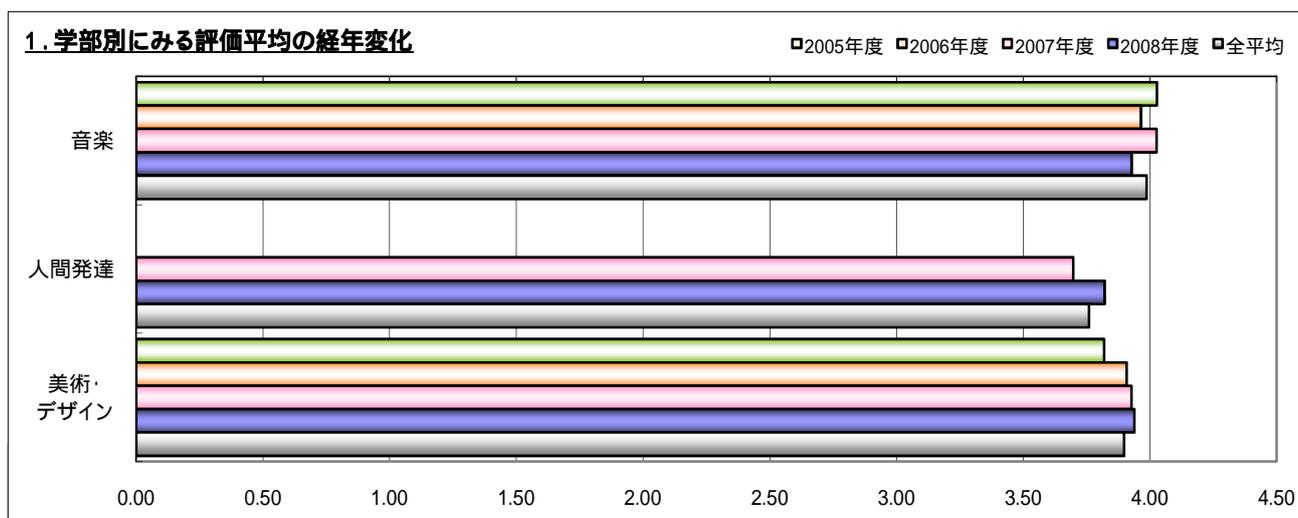
### 1. 学部別にみる評価平均の経年変化

全平均とは、2005年度～2008年度までの平均値。

所属学部別での評価平均の比較を行った。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	3.99	0.99	4.21	0.63	4.03	0.96	3.96	0.98	4.03	0.99	3.93	1.05
人間発達	3.76	1.02			-	-	-	-	3.70	1.06	3.82	0.99
美術・デザイン	3.90	0.93			3.82	0.91	3.91	0.88	3.93	0.96	3.94	0.98

2004年度は合計に含まれておりません。

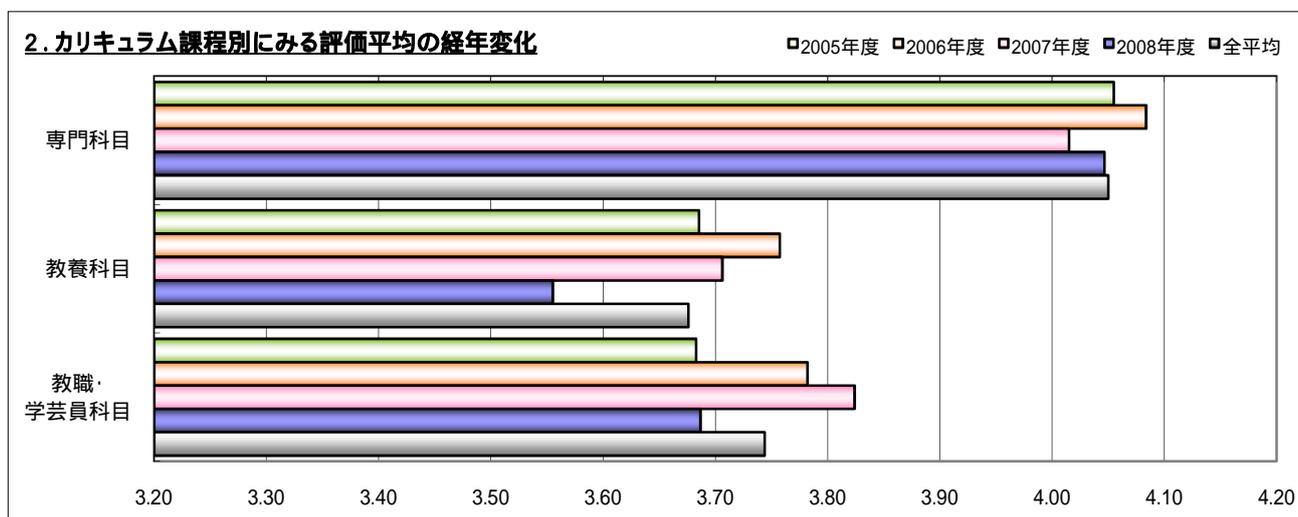


### 2. カリキュラム課程別にみる評価平均の経年変化

カリキュラム課程別での評価平均の比較を行った。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
専門科目	4.05	0.93	4.24	0.56	4.05	0.91	4.08	0.89	4.02	0.97	4.05	0.94
教養科目	3.68	0.98	3.73	0.46	3.69	0.94	3.76	0.94	3.71	1.00	3.56	1.05
教職・学芸員科目	3.74	0.98	3.80	0.47	3.68	0.94	3.78	0.95	3.82	0.96	3.69	1.09

2004年度は合計に含まれておりません。

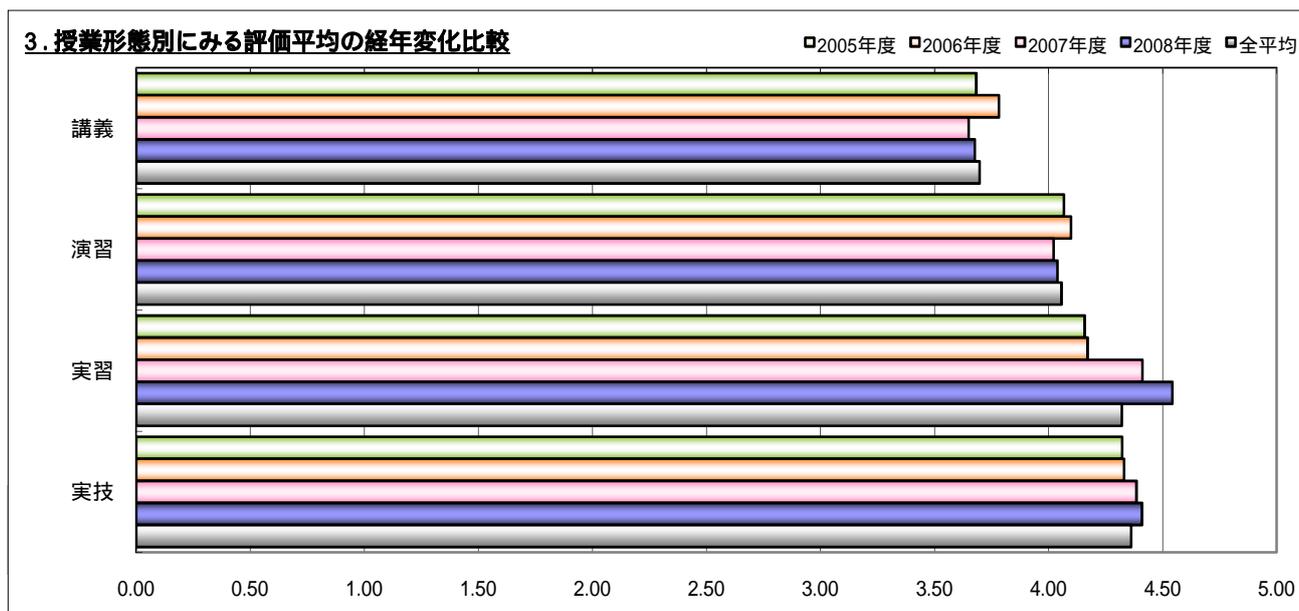


### 3. 授業形態別にみる評価平均の経年変化比較

授業形態別での評価平均の比較を行った。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
講義	3.70	0.99	3.78	0.51	3.68	0.96	3.78	0.95	3.65	1.01	3.68	1.04
演習	4.06	0.89	4.31	0.60	4.07	0.84	4.10	0.83	4.02	0.96	4.04	0.92
実習	4.32	0.76			4.16	0.92	4.17	0.70	4.41	0.71	4.54	0.69
実技	4.36	0.76			4.32	0.77	4.33	0.73	4.38	0.76	4.41	0.79

2004年度は合計に含まれておりません。



# 第1章 調査結果の報告

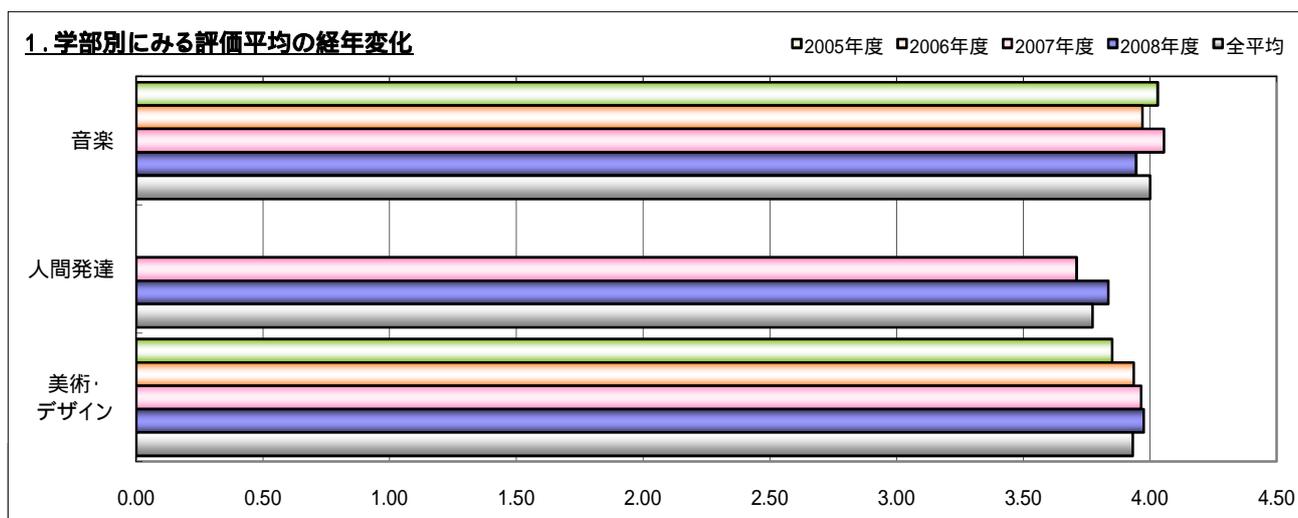
## 総合的満足度比較

### 1. 学部別にみる評価平均の経年変化

所属学部別での問9.総合的満足度の評価平均の比較を行った。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	4.00	0.99			4.03	0.98	3.97	0.98	4.06	0.97	3.95	1.04
人間発達	3.77	1.00	4.26	0.65	-	-	-	-	3.71	1.03	3.84	0.98
美術・デザイン	3.93	0.92			3.85	0.94	3.94	0.88	3.97	0.93	3.98	0.96

2004年度は合計に含まれておりません。

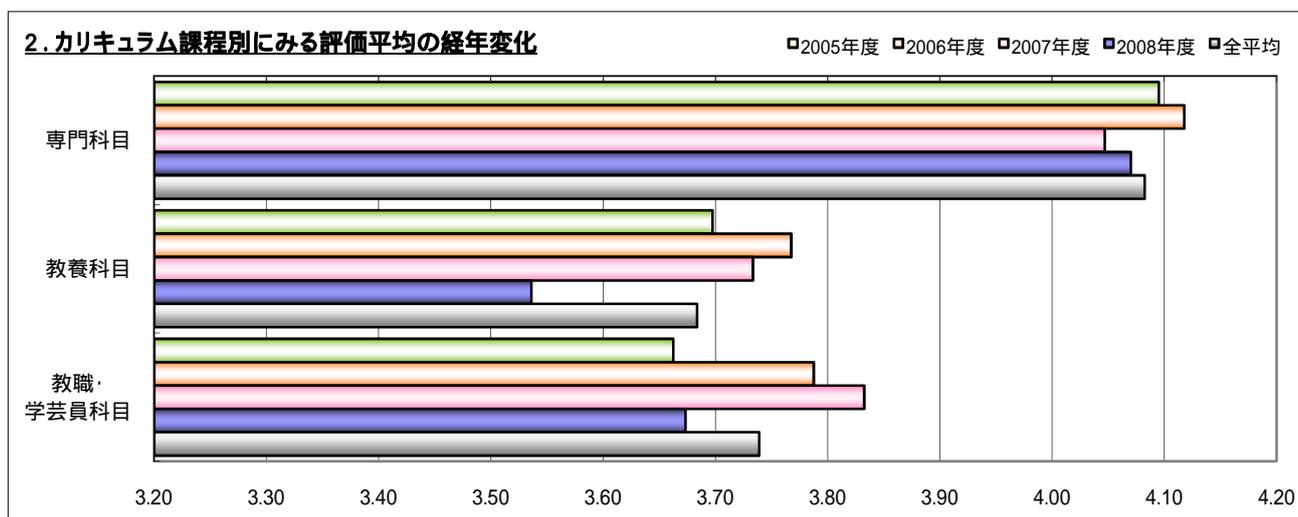


### 2. カリキュラム課程別にみる評価平均の経年変化

カリキュラム課程別での問9.総合的満足度の評価平均の比較を行った。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
専門科目	4.08	0.91	4.30	0.58	4.10	0.92	4.12	0.88	4.05	0.94	4.07	0.92
教養科目	3.68	0.98	3.77	0.48	3.70	0.95	3.77	0.95	3.73	0.96	3.54	1.04
教職・学芸員科目	3.74	0.99	3.81	0.49	3.66	0.96	3.79	0.96	3.83	0.95	3.67	1.09

2004年度は合計に含まれておりません。

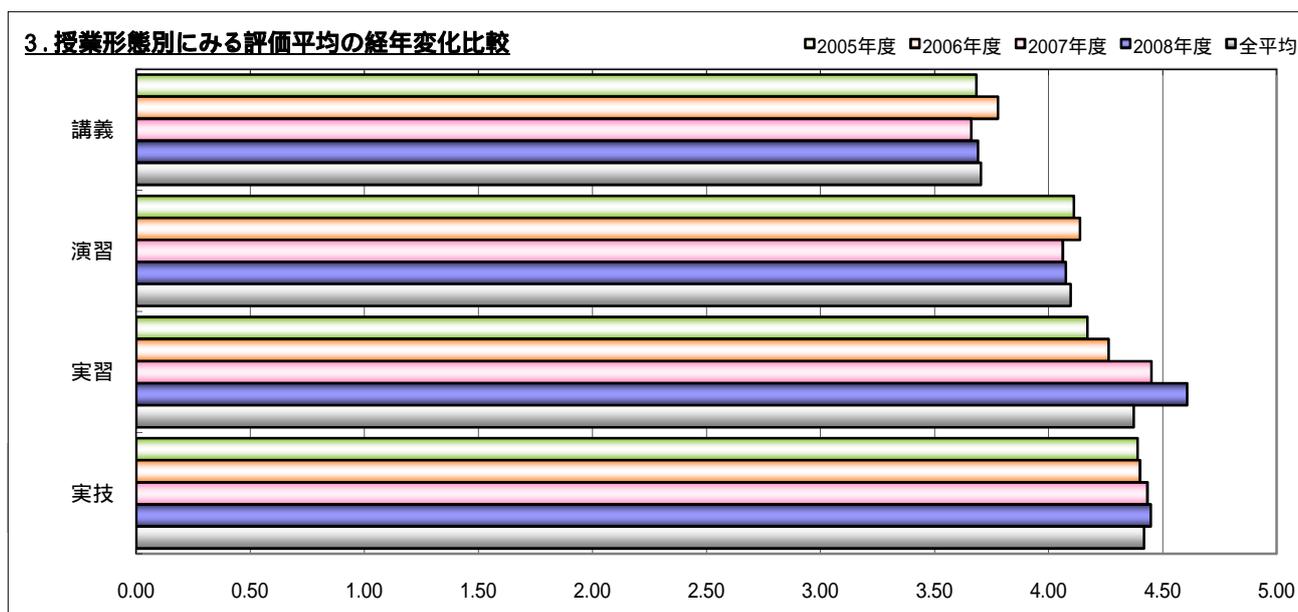


### 3. 授業形態別にみる評価平均の経年変化比較

授業形態別での問9. 総合的満足度の評価平均の比較を行った。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
講義	3.70	0.98	3.81	0.54	3.68	0.98	3.78	0.96	3.66	0.97	3.69	1.02
演習	4.10	0.87	4.36	0.61	4.11	0.85	4.14	0.82	4.06	0.93	4.08	0.89
実習	4.37	0.77			4.17	0.94	4.26	0.69	4.45	0.68	4.61	0.77
実技	4.42	0.72			4.39	0.75	4.40	0.69	4.43	0.71	4.45	0.75

2004年度は合計に含まれておりません。



# 第1章 調査結果の報告

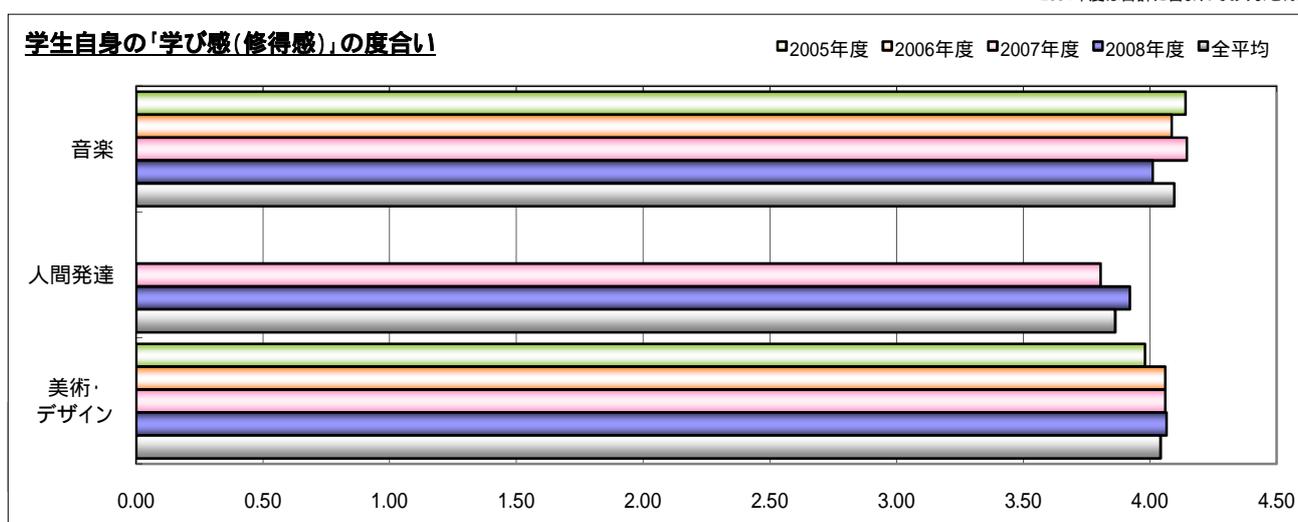
## 設問別 × 学部別 評価平均比較

### 1. 設問別にみる評価平均の経年変化比較

Q1. この授業を通して得たことがあると思いますか。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	4.10	0.94	4.40	0.56	4.14	0.90	4.09	0.93	4.15	0.94	4.01	1.02
人間発達	3.86	1.00			-	-	-	-	3.81	1.04	3.92	0.96
美術・デザイン	4.04	0.88			3.98	0.84	4.06	0.82	4.06	0.94	4.07	0.94

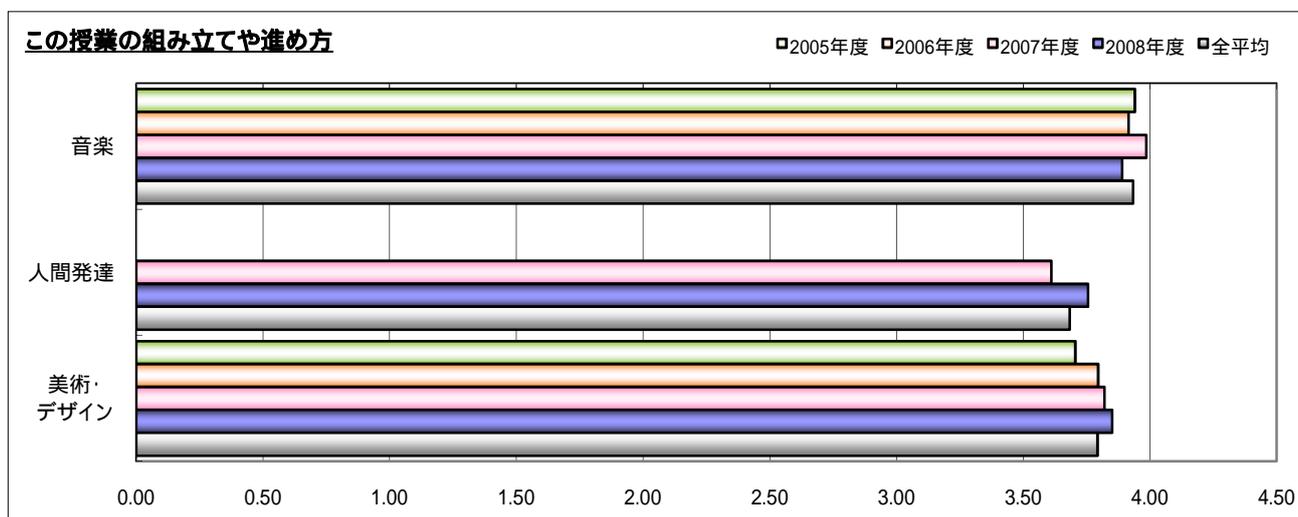
2004年度は合計に含まれておりません。



Q2. この授業の組み立てや進め方はよかったと思いますか。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	3.93	1.00	4.09	0.67	3.94	0.99	3.92	0.97	3.99	1.00	3.89	1.07
人間発達	3.68	1.04			-	-	-	-	3.61	1.07	3.76	1.02
美術・デザイン	3.79	0.96			3.71	0.94	3.80	0.91	3.82	0.99	3.85	1.02

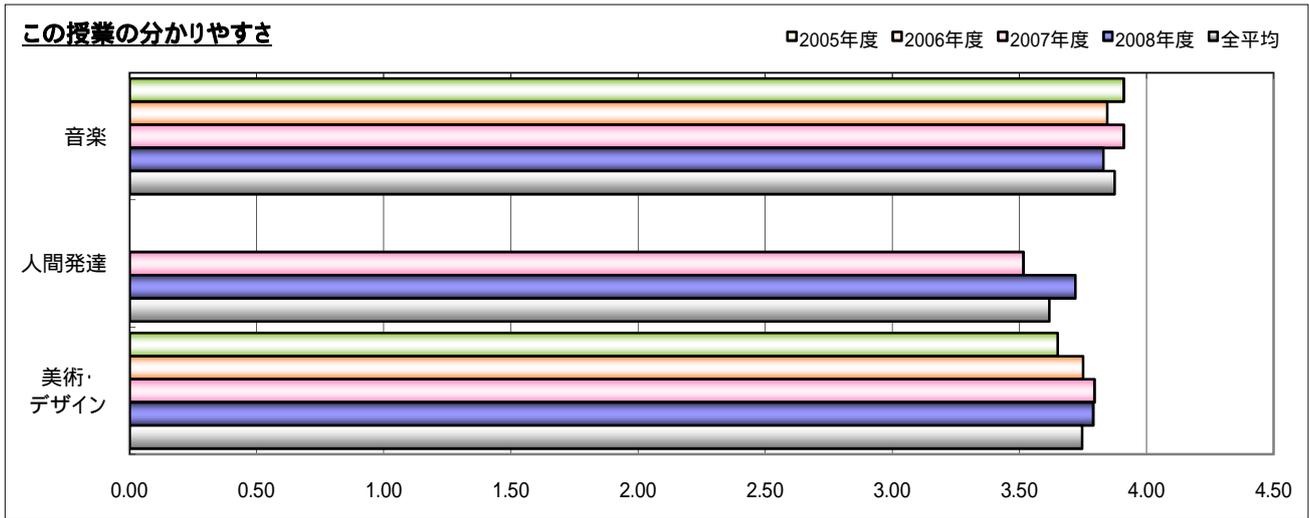
2004年度は合計に含まれておりません。



Q3. この授業は分かりやすかったですか。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	3.87	1.08	4.15	0.70	3.91	1.06	3.85	1.05	3.91	1.08	3.83	1.13
人間発達	3.62	1.09			-	-	-	-	3.52	1.12	3.72	1.05
美術・デザイン	3.75	1.03			3.65	1.02	3.75	0.97	3.80	1.05	3.79	1.08

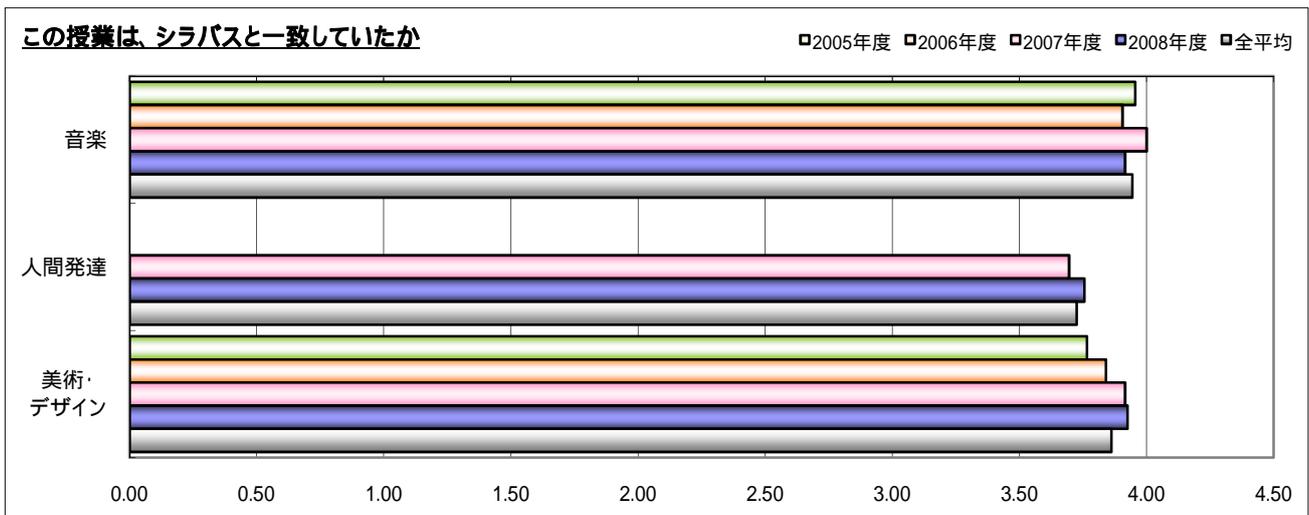
2004年度は合計に含まれておりません。



Q4. 授業内容はシラバス(講義要綱)通りの内容でしたか。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	3.94	0.93	4.04	0.61	3.96	0.90	3.91	0.92	4.00	0.94	3.92	0.98
人間発達	3.73	0.95			-	-	-	-	3.70	0.96	3.76	0.94
美術・デザイン	3.86	0.86			3.77	0.83	3.84	0.80	3.92	0.91	3.93	0.92

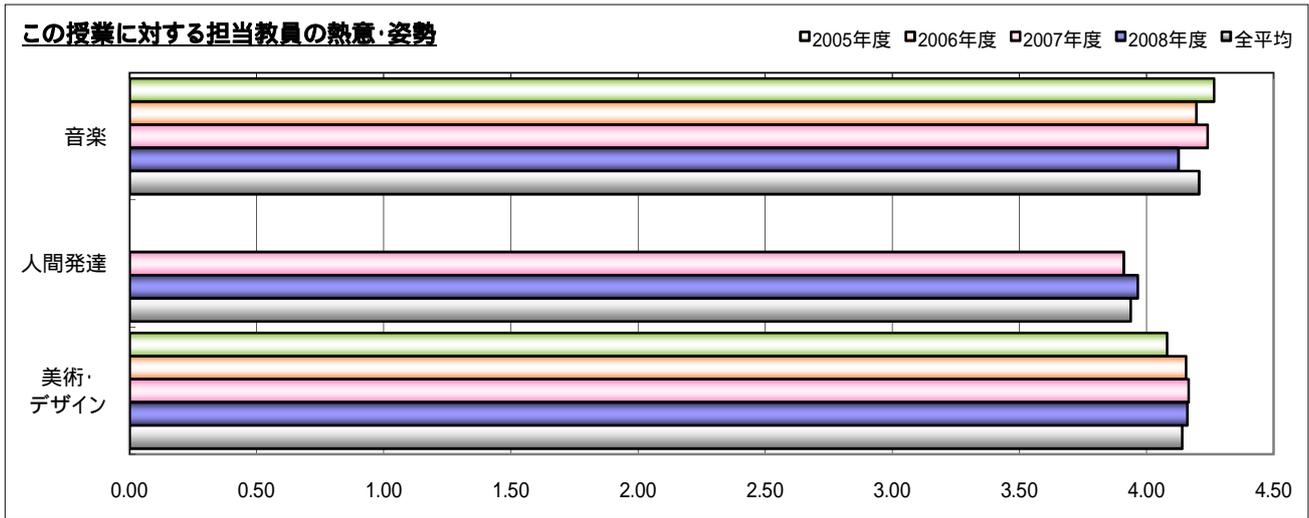
2004年度は合計に含まれておりません。



Q5. この授業に対して担当教員の熱意が感じられましたか。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	4.21	0.92	4.40	0.55	4.27	0.87	4.20	0.90	4.24	0.92	4.13	1.00
人間発達	3.94	1.05			-	-	-	-	3.91	1.10	3.97	1.01
美術・デザイン	4.14	0.85			4.08	0.84	4.16	0.79	4.17	0.88	4.16	0.91

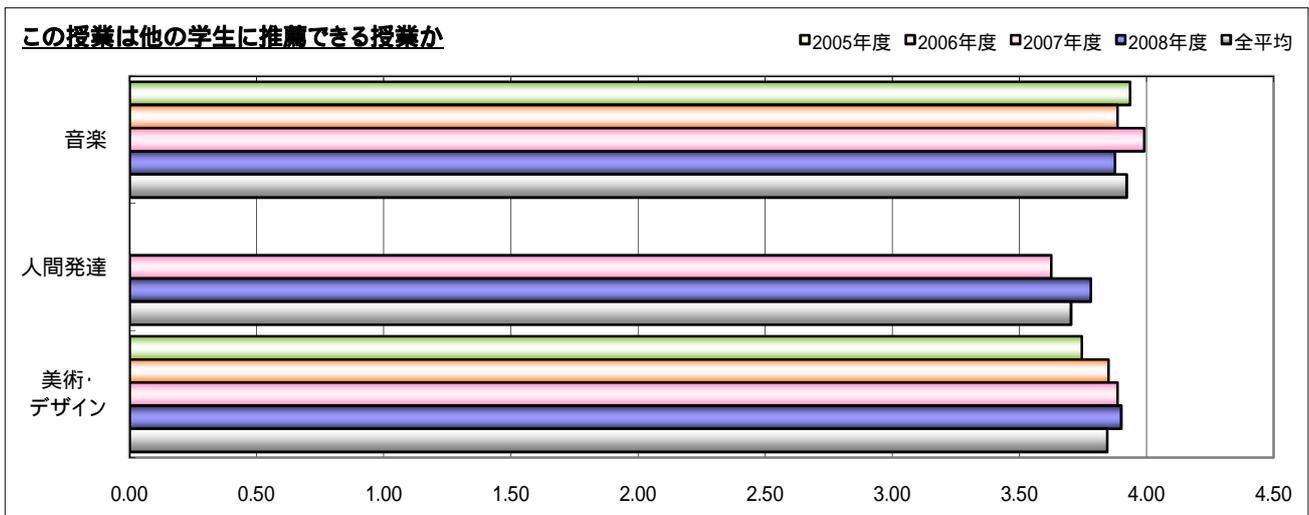
2004年度は合計に含まれておりません。



Q6. あなたはこの授業を後輩に勧めたいと思いますか。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	3.92	1.08	4.15	0.70	3.94	1.06	3.89	1.08	3.99	1.07	3.88	1.13
人間発達	3.70	1.09			-	-	-	-	3.63	1.13	3.78	1.05
美術・デザイン	3.85	1.01			3.75	1.00	3.85	0.96	3.89	1.04	3.90	1.07

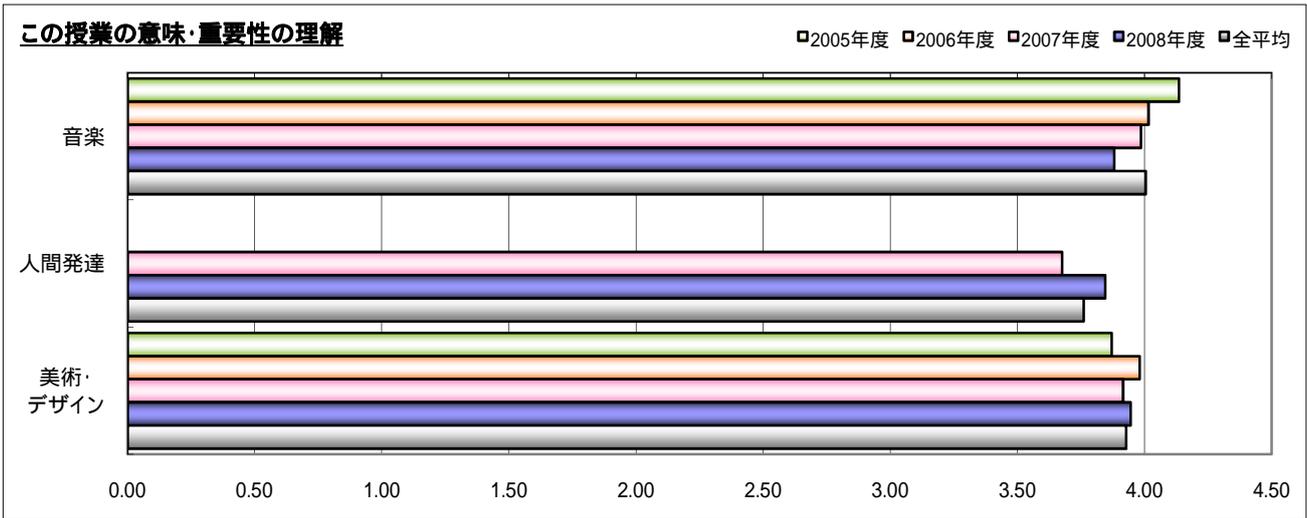
2004年度は合計に含まれておりません。



Q7. カリキュラム構成上、この授業がおかれている意味は理解できましたか。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	4.00	1.01	4.27	0.64	4.14	0.97	4.02	0.99	3.99	1.02	3.88	1.09
人間発達	3.76	1.02			-	-	-	-	3.68	1.06	3.85	0.98
美術・デザイン	3.93	0.94			3.87	0.93	3.98	0.89	3.92	0.96	3.95	0.98

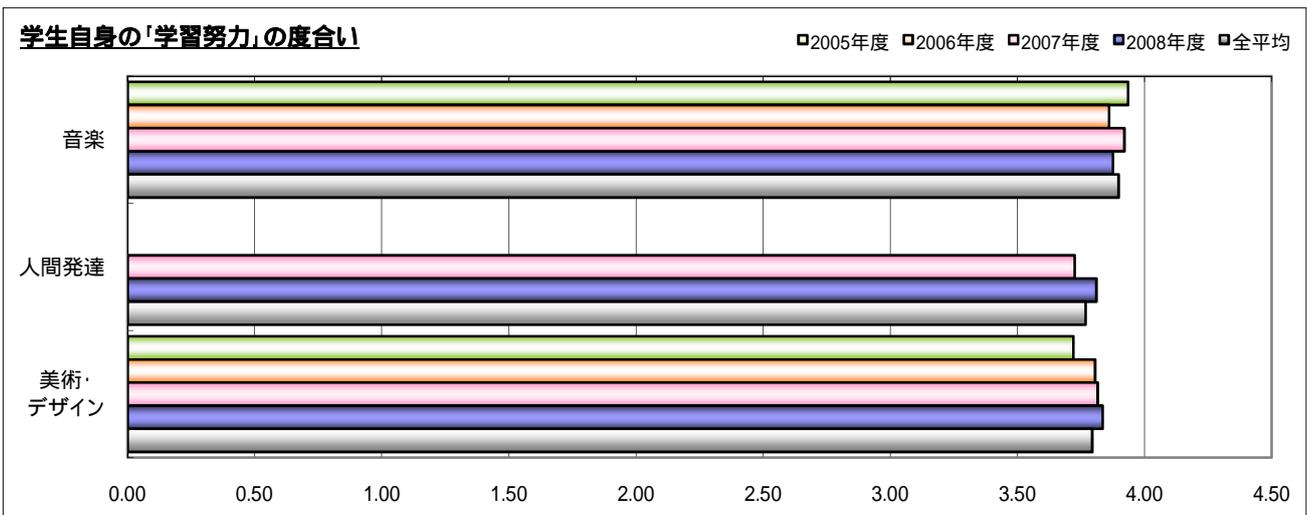
2004年度は合計に含まれておりません。



Q8. あなたはこの授業について真剣に学ぶ努力をしましたか。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	3.90	0.99	4.13	0.63	3.94	0.98	3.86	0.97	3.92	0.98	3.88	1.02
人間発達	3.77	0.98			-	-	-	-	3.73	1.00	3.81	0.97
美術・デザイン	3.79	0.94			3.72	0.91	3.81	0.90	3.82	0.98	3.84	0.97

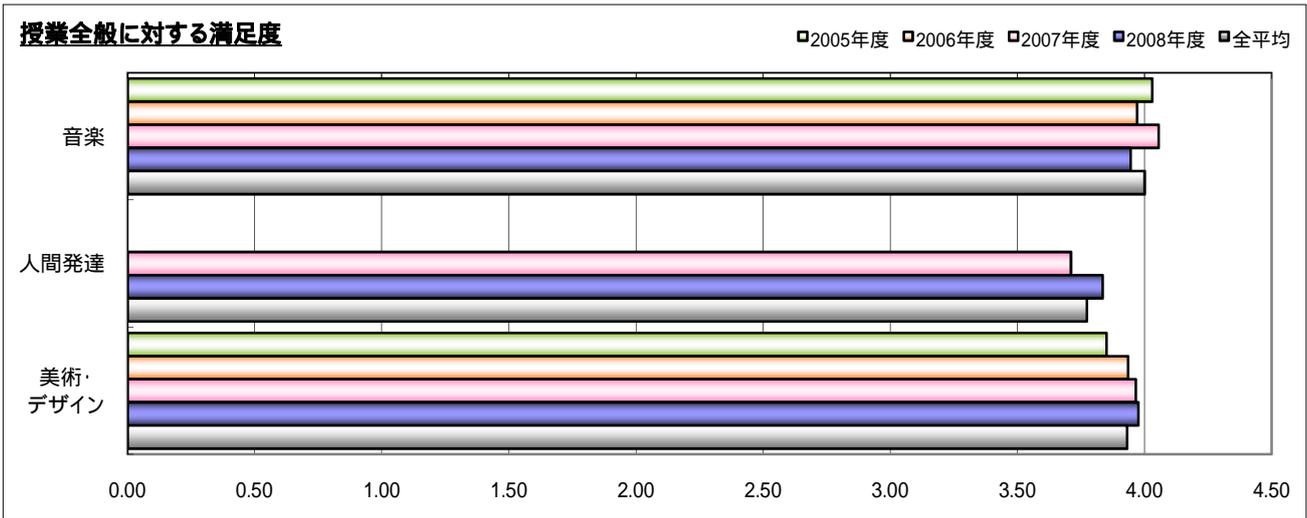
2004年度は合計に含まれておりません。



Q9.この授業全般について総合的に評価してください。

	全平均		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
音楽	4.00	0.99	4.26	0.65	4.03	0.98	3.97	0.98	4.06	0.97	3.95	1.04
人間発達	3.77	1.00			-	-	-	-	3.71	1.03	3.84	0.98
美術・デザイン	3.93	0.92			3.85	0.94	3.94	0.88	3.97	0.93	3.98	0.96

2004年度は合計に含まれておりません。



## 第2章

# 調査結果の考察

## 第2章 調査結果の考察

### クロス集計からみる「総合的満足度」と各項目の関係性

【全授業科目】 (n=42,280)

#### Q1. この授業を通して得たこと

#### Q9. この授業科目についての満足度

		[回答数(人)]				総合的満足度(Q9)				[構成比(%)]				総合的満足度(Q9)				
修 得 感 (Q1)	No.	選択肢				5	4	2	1	No.	選択肢				5	4	2	1
	5	まったくそう思う	12,520	2,739	20	6	5	まったくそう思う	87.0%	18.3%	0.9%	0.6%						
	4	どちらかというと思う	1,768	11,163	298	25	4	どちらかというと思う	12.3%	74.6%	13.9%	2.7%						
	2	どちらかというと思わない	4	46	925	221	2	どちらかというと思わない	0.0%	0.3%	43.1%	23.6%						
	1	まったくそう思わない	7	3	133	591	1	まったくそう思わない	0.0%	0.0%	6.2%	63.1%						

#### Q2. この授業の組み立てや進め方

#### Q9. この授業科目についての満足度

		[回答数(人)]				総合的満足度(Q9)				[構成比(%)]				総合的満足度(Q9)				
組 立 て (Q2)	No.	選択肢				5	4	2	1	No.	選択肢				5	4	2	1
	5	まったくそう思う	11,419	1,154	4	4	5	まったくそう思う	79.4%	7.7%	0.2%	0.4%						
	4	どちらかというと思う	2,721	10,955	69	12	4	どちらかというと思う	18.9%	73.2%	3.2%	1.3%						
	2	どちらかというと思わない	22	154	1,233	154	2	どちらかというと思わない	0.2%	1.0%	57.5%	16.4%						
	1	まったくそう思わない	11	7	288	720	1	まったくそう思わない	0.1%	0.0%	13.4%	76.8%						

#### Q3. 授業の分かりやすさ

#### Q9. この授業科目についての満足度

		[回答数(人)]				総合的満足度(Q9)				[構成比(%)]				総合的満足度(Q9)				
分 か り や す さ (Q3)	No.	選択肢				5	4	2	1	No.	選択肢				5	4	2	1
	5	まったくそう思う	11,780	1,521	5	4	5	まったくそう思う	82.0%	10.2%	0.2%	0.4%						
	4	どちらかというと思う	2,291	9,930	67	5	4	どちらかというと思う	15.9%	66.5%	3.1%	0.5%						
	2	どちらかというと思わない	22	258	1,196	110	2	どちらかというと思わない	0.2%	1.7%	55.9%	11.8%						
	1	まったくそう思わない	8	13	530	788	1	まったくそう思わない	0.1%	0.1%	24.8%	84.3%						

Q4. 授業内容はシラバス通りの内容でしたか？

Q9. この授業科目についての満足度

〔回答数(人)〕		総合的満足度(Q9)				〔構成比(%)〕		総合的満足度(Q9)					
シラバス (Q4)	No.	選択肢				No.	選択肢						
		5	4	2	1		5	4	2	1			
	5	まったくそう思う	10,432	1,281	42		22	5	まったくそう思う	73.2%	8.6%	2.0%	2.4%
	4	どちらかというと思う	2,879	9,480	265		37	4	どちらかというと思う	20.2%	63.7%	12.4%	4.0%
	2	どちらかというと思わない	29	99	532		159	2	どちらかというと思わない	0.2%	0.7%	24.9%	17.1%
1	まったくそう思わない	20	22	71	438	1	まったくそう思わない	0.1%	0.1%	3.3%	47.0%		

Q5. この授業に対して担当教員の熱意が感じられましたか？

Q9. この授業科目についての満足度

〔回答数(人)〕		総合的満足度(Q9)				〔構成比(%)〕		総合的満足度(Q9)					
教員の熱意 (Q5)	No.	選択肢				No.	選択肢						
		5	4	2	1		5	4	2	1			
	5	まったくそう思う	12,967	4,493	150		47	5	まったくそう思う	90.2%	30.0%	7.0%	5.0%
	4	どちらかというと思う	1,292	9,312	503		74	4	どちらかというと思う	9.0%	62.2%	23.4%	7.9%
	2	どちらかというと思わない	10	63	587		151	2	どちらかというと思わない	0.1%	0.4%	27.3%	16.1%
1	まったくそう思わない	10	11	91	497	1	まったくそう思わない	0.1%	0.1%	4.2%	53.0%		

Q6. あなたはこの授業を後輩に進めたいと思いますか？

Q9. この授業科目についての満足度

〔回答数(人)〕		総合的満足度(Q9)				〔構成比(%)〕		総合的満足度(Q9)					
授業の紹介 (Q6)	No.	選択肢				No.	選択肢						
		5	4	2	1		5	4	2	1			
	5	まったくそう思う	12,519	1,805	7		7	5	まったくそう思う	87.1%	12.1%	0.3%	0.7%
	4	どちらかというと思う	1,654	9,903	34		3	4	どちらかというと思う	11.5%	66.3%	1.6%	0.3%
	2	どちらかというと思わない	11	116	1,201		67	2	どちらかというと思わない	0.1%	0.8%	56.0%	7.2%
1	まったくそう思わない	9	11	502	831	1	まったくそう思わない	0.1%	0.1%	23.4%	88.8%		

Q7.カリキュラム構成上、この授業がおかれている意味は理解できましたか？

Q9.この授業科目についての満足度

		〔回(回答数(人))〕				〔構成比(%)〕				総合的満足度(Q9)				
授業の意味(Q7)	No.	選択肢				No.	選択肢				総合的満足度(Q9)			
		5	4	2	1		5	4	2	1				
	5	まったくそう思う	11,128	2,019	16	13	5	まったくそう思う	86.0%	16.4%	1.0%	1.6%		
	4	どちらかというと思う	1,593	8,147	119	17	4	どちらかというと思う	12.3%	66.4%	7.2%	2.1%		
	2	どちらかというと思わない	14	110	821	104	2	どちらかというと思わない	0.1%	0.9%	49.8%	13.1%		
1	まったくそう思わない	10	10	183	584	1	まったくそう思わない	0.1%	0.1%	11.1%	73.8%			

Q8.あなたはこの授業について真剣に学ぶ努力をしましたか？

Q9.この授業科目についての満足度

		〔回答数(人)〕				〔構成比(%)〕				総合的満足度(Q9)				
学ぶ努力(Q8)	No.	選択肢				No.	選択肢				総合的満足度(Q9)			
		5	4	2	1		5	4	2	1				
	5	まったくそう思う	10,826	1,404	79	84	5	まったくそう思う	75.4%	9.4%	3.7%	9.0%		
	4	どちらかというと思う	2,928	9,800	242	70	4	どちらかというと思う	20.4%	65.6%	11.3%	7.5%		
	2	どちらかというと思わない	50	320	861	162	2	どちらかというと思わない	0.3%	2.1%	40.2%	17.3%		
1	まったくそう思わない	24	44	190	465	1	まったくそう思わない	0.2%	0.3%	8.9%	49.7%			

## 第2章 調査結果の考察

### 重回帰分析からみる「総合的満足度」と各項目の関係性

#### 1. 2004年度後期から2008年度までの全数

今回の調査では、Q6のこの授業は他の学生に推薦できる授業かという問いが全体の満足度のポイントに影響していた。これは満足度の度合いに関係なく影響していた。

つまり、単純に良い授業であれば他の学生に推薦したいという気持ちの表れであり、教育が精神と大きく結びついている証でもあった。各授業において履修学希望生数が減少傾向にある場合はその授業に何らかの問題が生じていることは教員自身が気付いていることでもあるが、この調査によって明確な裏づけとなった。

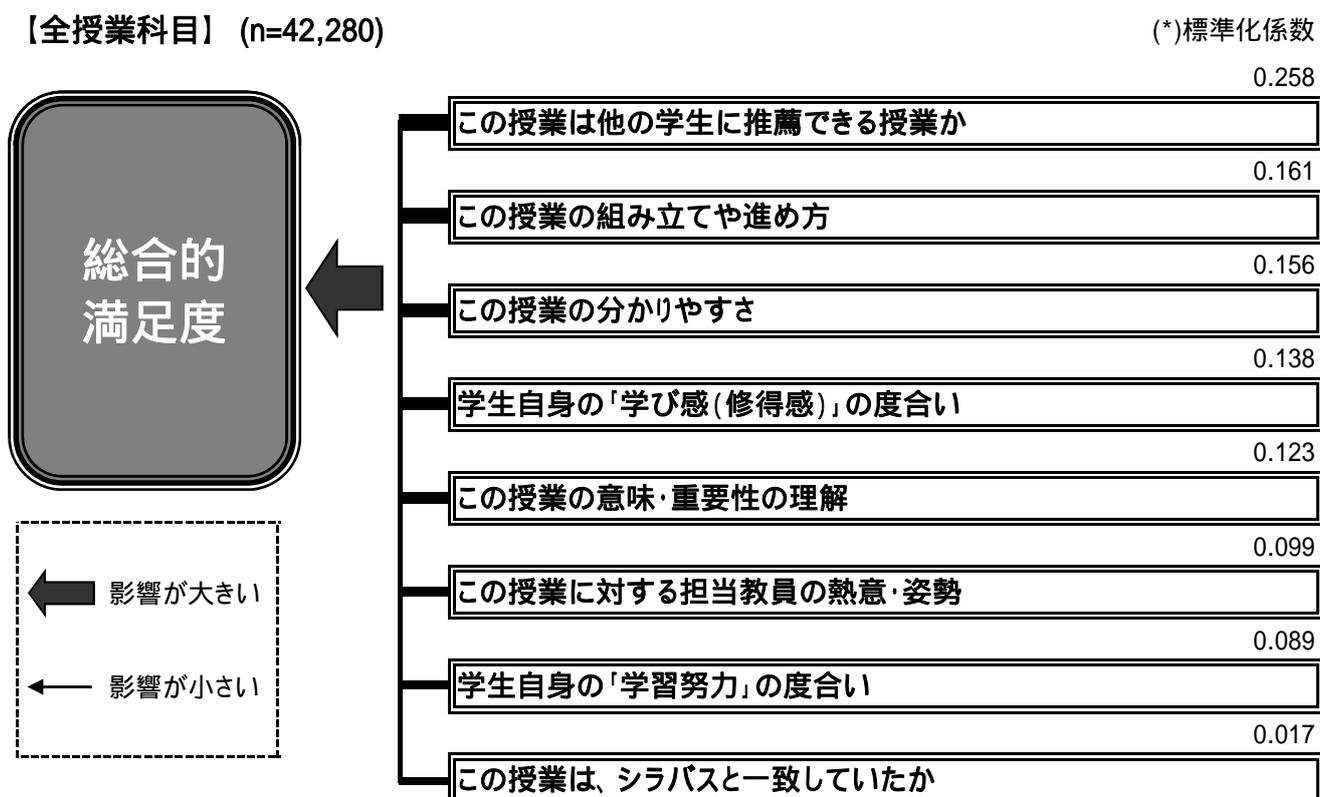
今後は途中退席の学生や履修学生の数については一つのバロメーターとして常に教員は十分な注意をもって臨まなければならない。しかしながら、その内容を知るためには設問についてももう少し具体的な設問が必要であることがわかった。

授業評価の各調査項目が「総合的満足度」にそれぞれどの程度影響しているかについて重回帰分析を行った。

また、「授業全体の満足度」を従属変数、「授業評価の各項目」を独立変数として重回帰分析を行った。

下記のとおり、全授業科目の評価でみると、「Q6.この授業は他の学生に推薦できる授業か」が1単位(1点)上がると、全体の満足度は、0.258ポイント上昇することが予測できる。

#### 重回帰分析でみた「総合的満足度」と各項目との関係図



\*標準化係数;各項目の値が1単位(1点)変化した時、従属変数がどれだけ変化するか示している。

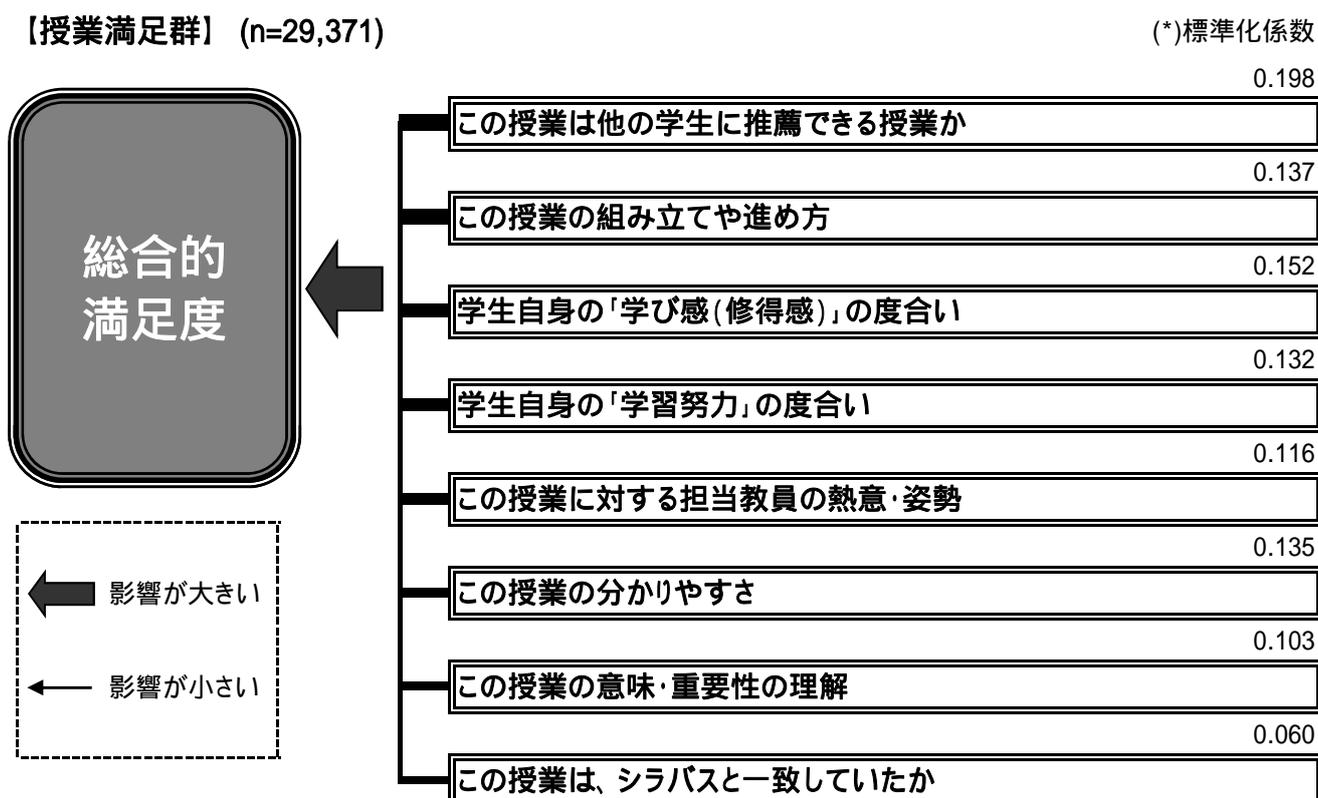
標準化係数(ベータ値)の値は「授業全体の満足度」への貢献度を表しており、該当項目(独立変数)が1単位(1点)分大きくなると、「授業全体の満足度」(従属変数)が平均的にどの程度上がるかを示している。

## 2. 満足度が高い学生群での分析(学生の自己評価4.0ポイント以上の集団との比較)

学生の自己評価とは、「問9.この授業全般について総合的に評価してください。」における、満足度の評価が4.0ポイントを上回る学生群が、満足度にどのような影響や違いがみられるかを検証した。

下記のとおり、全授業科目の評価でみると、「Q6.この授業は他の学生に推薦できる授業か」が1単位(1点)上がると、全体の満足度は、0.198ポイント上昇することが予測できる。

### 重回帰分析でみた「総合的満足度」と各項目との関係図



\*標準化係数;各項目の値が1単位変化した時、従属変数がどれだけ変化するか示している。

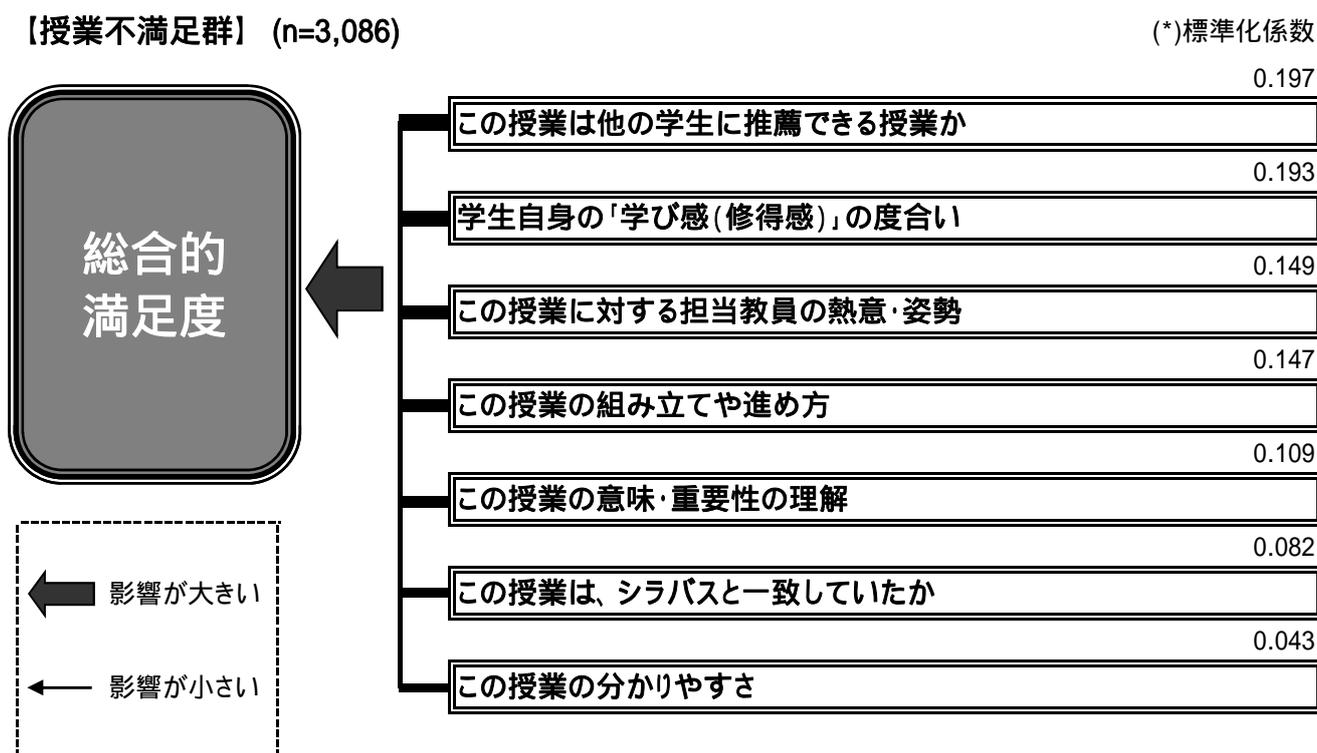
標準化係数(ベータ値)の値は「授業全体の満足度」への貢献度を表しており、該当項目(独立変数)が1単位(1点)分大きくなると、「授業全体の満足度」(従属変数)が平均的にどの程度上がるかを示している。

### 3. 満足度が低い学生群での分析(学生の自己評価2.0ポイント以下の集団との比較)

学生の自己評価とは、「問9.この授業全般について総合的に評価してください。」における、満足度の評価が2.0ポイントを下回る学生群が、満足度にどのような影響や違いがみられるかを検証した。

下記のとおり、全授業科目の評価でみると、「Q6.この授業は他の学生に推薦できる授業か」が1単位(1点)上がると、全体の満足度は、0.197ポイント上昇することが予測できる。

#### 重回帰分析でみた「総合的満足度」と各項目との関係図



\*標準化係数;各項目の値が1単位変化した時、従属変数がどれだけ変化するか示している。

標準化係数(ベータ値)の値は「授業全体の満足度」への貢献度を表しており、該当項目(独立変数)が1単位(1点)分大きくなると、「授業全体の満足度」(従属変数)が平均的にどの程度上がるかを示している。

## 第2章 調査結果の考察

### 満足群と不満足度群との比較

先の重回帰分析で明らかになった標準化係数を満足群と不満足群とで比較を行った。

学校全体で総合的満足度にもっとも影響があった調査項目は、問6。「この授業は、他の学生に推薦できる授業か」であった。次いで、問5の「この授業に対する担当教員の熱意・姿勢」であったが、授業に満足している学生だけの母集団では、問1。「学生自身の学び感(修得感)の度合い」が2番目に影響していることがわかった。

一方で、授業に満足していない学生だけの母集団で見ても、問1。「学生自身の学び感(修得感)の度合い」が2番目に影響していた。

そして、満足している学生群と不満足な学生群との比較では、満足している学生群では、「学生自身の学習能力の度合い」や「授業の分かりやすさ」が、影響度の上位であったのに対して、不満足な学生群では、「授業の組み立て方や進め方」、「授業に対する教員の姿勢や熱意」が満足度に影響していることがわかる。

#### 全授業科目 (n=42,280)

	(*)標準化係数
1 この授業は他の学生に推薦できる授業か	#####
2 この授業に対する担当教員の熱意・姿勢	#####
3 学生自身の「学習努力」の度合い	#####
4 この授業の分かりやすさ	#####
5 学生自身の「学び感(修得感)」の度合い	#####
6 この授業の意味・重要性の理解	#####
7 この授業の組み立てや進め方	#####
8 この授業は、シラバスと一致していたか	#####



#### 〔満足群〕

学生の自己評価(4.0ポイント以上)(n=29,371)

	(*)標準化係数
1 この授業は他の学生に推薦できる授業か	#####
2 学生自身の「学び感(修得感)」の度合い	#####
3 学生自身の「学習努力」の度合い	#####
4 この授業の分かりやすさ	#####
5 この授業の組み立てや進め方	#####
6 この授業に対する担当教員の熱意・姿勢	#####
7 この授業の意味・重要性の理解	#####
8 この授業は、シラバスと一致していたか	#####

#### 〔不満足群〕

学生の自己評価(2.0ポイント以下)(n=3,086)

	(*)標準化係数
1 この授業は他の学生に推薦できる授業か	#####
2 学生自身の「学び感(修得感)」の度合い	#####
3 この授業の組み立てや進め方	#####
4 この授業に対する担当教員の熱意・姿勢	#####
5 この授業の意味・重要性の理解	#####
6 この授業は、シラバスと一致していたか	#####
7 この授業の分かりやすさ	#####
8 学生自身の「学習努力」の度合い	#####

## 第2章 調査結果の考察

### 4つのグループ別にみる総合評価への影響度

先の重回帰分析の結果を受け、各授業評価項目(問1～9)をもとに、4つのグループに分けた。グルーピングの内訳は、「授業の仕方(Q2・3)」「教員・学生の姿勢(Q5・8)」「授業の成果(Q1)」「授業の目的(Q4・7)」である。

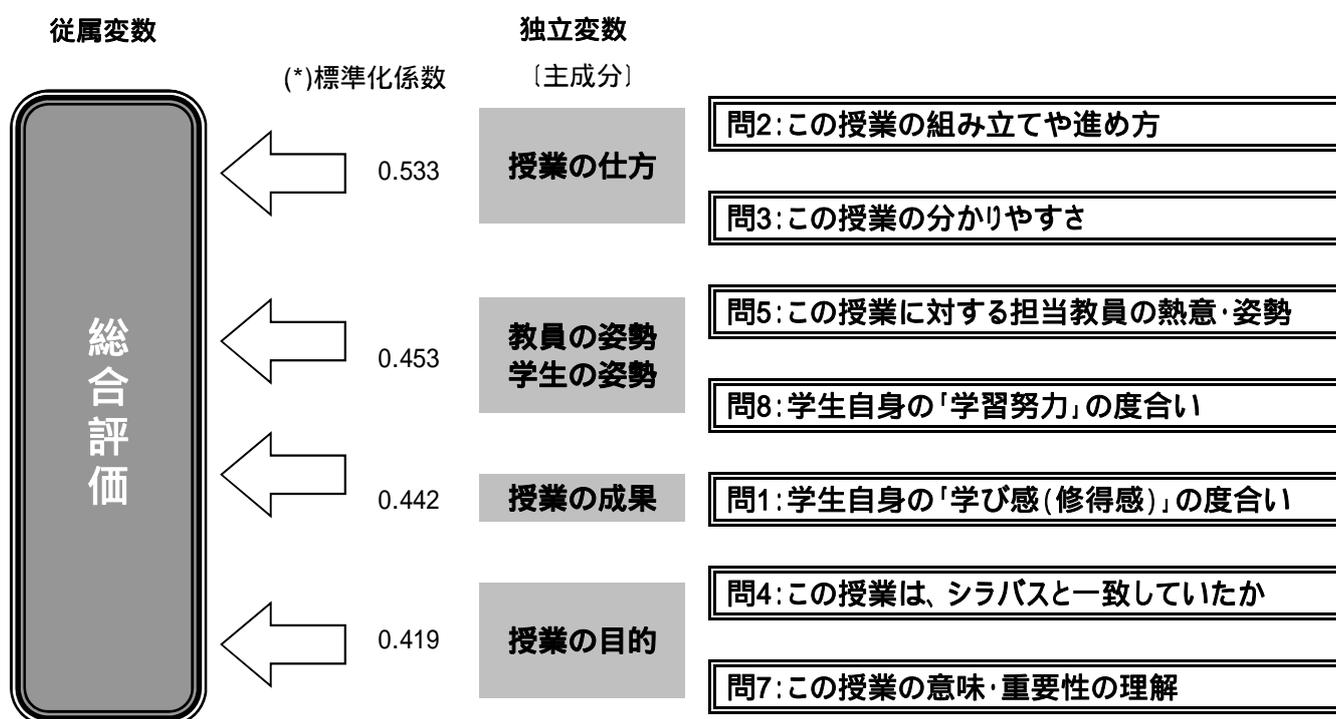
また、満足度については、Q9:「この授業全般について総合的に評価してください」のほかに、Q6:「あなたはこの授業を後輩に勧めたいと思いますか」の問いについても、「総合評価」とみなし、各調査項目の影響度を考察した。

「総合評価」の向上に最も貢献すると予測される主成分は、「授業の仕方」で、授業への興味を促したり、授業の進行速度、説明の分かりやすさ、学生との適切なコミュニケーションや板書の見やすさなど、教員の学生に対する働きかけの促進が大きく影響があることが窺える。

次に貢献度が高い成分は、「姿勢(教員や学生)」で、担当教員が熱意をもって指導しているかや、学生側においても授業に対する真剣に取り組む姿勢が影響していることが示された。

3番目に貢献度が高い成分は、「授業の成果」で、その授業を受けたことによって、知識や技術、スキルが身に付くいわゆる「学びの修得感」が得られる成果が影響していた。

しかしながら、大学とは言うまでもなく学術研究と教育の最高機関で専門的な高等教育を行う現場であることから、授業そのものについての履修したい強い動機、授業に臨む姿勢、普段の勉強時間などが希薄では成り立たず、これら学生自身の強い関心こそが大学教育の根底にあることは、言うまでもない。



総合評価 = 「Q6:この授業を後輩に勧めたいか」 + 「Q9:授業全般についての総合評価」

\*4つのグループを押し並べて考えるため、主成分数を4と指定しバリマックス回転を適用した主成分分析を行い、算出された4つの主成分を独立変数に、総合評価を従属変数とした重回帰分析を行った結果、それぞれの主成分が「総合評価」に与える影響度の大きさが標準化係数(=ベータ値)として表された。

## 第3章

# 調査結果の総括

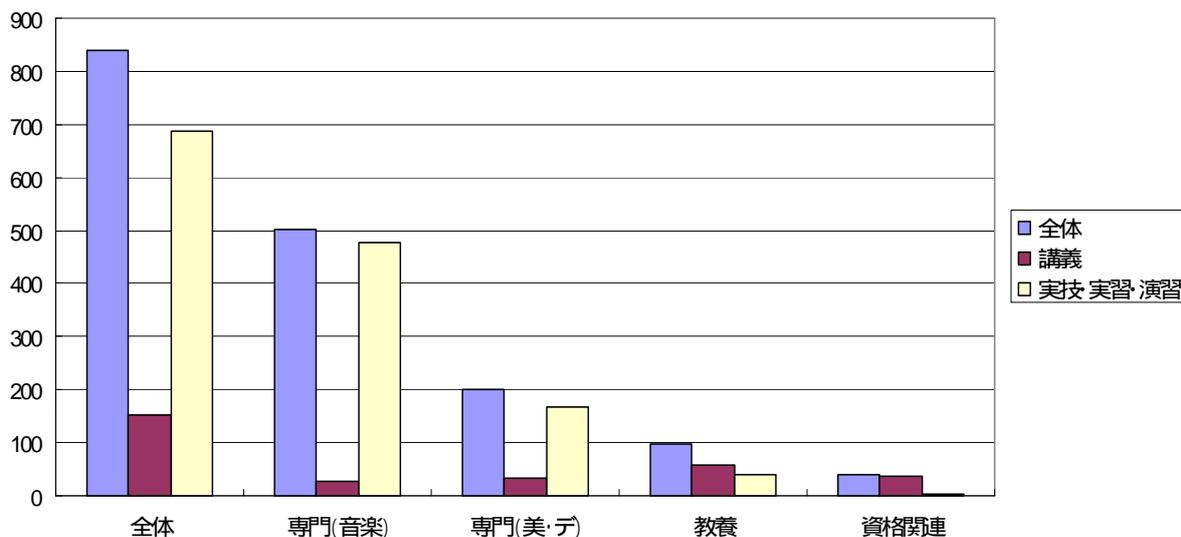
### 第3章 調査結果の総括

#### 本授業評価から見たもの -2004年度後期調査報告より-

\*本著は、2004年度の調査報告を基にまとめたものである。当時は、まだ人間発達学部が設立されておらず、調査結果は音楽・美術・デザインの3学部の結果であることを予め述べておく。

##### 1. 授業の特徴

1) 実技・実習・演習授業科目数が圧倒的に多かった。専門技術の獲得を目的として、実技・実習・演習科目を中心に授業を構成。各領域での実技・実習・演習の占める割合は、音楽の専門科目では95%、美術・デザインの専門科目で84%、教養科目では42%、資格関連科目では5%であった。

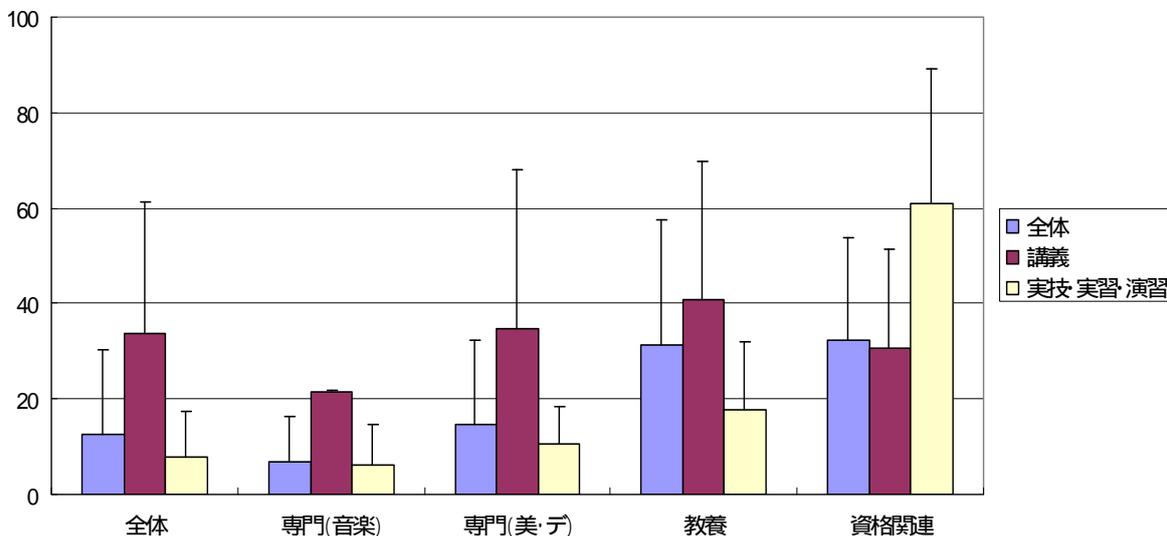


2) 授業規模を示す1授業の平均回答数は、専門科目は少なく、教養 < 資格関連。

専門科目の実技授業は専門的技術の修得を重視しているため、少人数授業が極めて多かった。特に音楽専門実技(下図)を参照されたい。

ただし、教育基本法改正に伴い、学士課程教育の見直しが大きく指摘されている今日、本学の授業構成については検討することが必要である。

(人)



## 2. 評価値の特徴

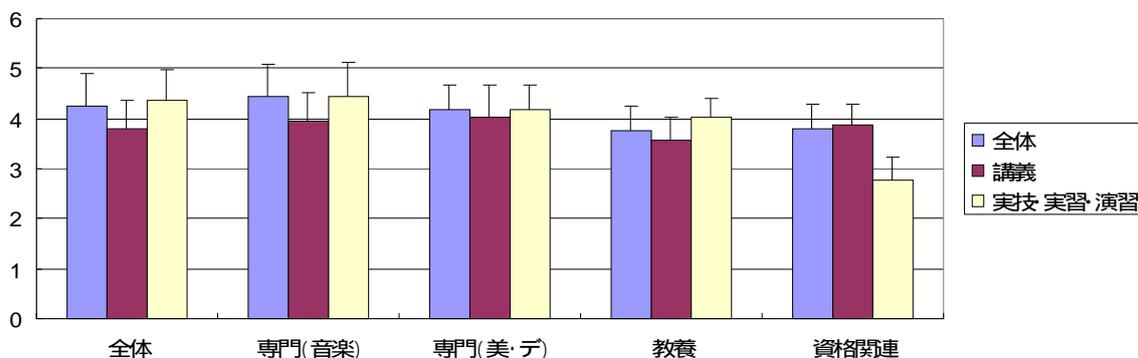
1) 学生の評価は高かった。大学全体でみると、いずれも4.0ポイント以上の高評価であった。

Q1 授業の達成感、充実感	4.40 ± 0.54
Q2 授業の組み立て、進め方	4.09 ± 0.67
Q3 わかり易さ	4.15 ± 0.69
Q4 授業とシラバスの関連度	4.04 ± 0.60
Q5 担当教員の熱意	4.40 ± 0.54
Q6 後輩に勧めたい授業	4.16 ± 0.69
Q7 授業内容の重要性の理解	4.27 ± 0.63
Q8 学生自身の取り組み方	4.13 ± 0.62
Q9 授業に対する総合評価	4.26 ± 0.64

2) 専門・教養・資格関連の科目間で比較すると、全設問で専門科目が高く教養および資格関連科目は低い傾向となった。(下図のとおり、Q9は典型例である。)また、Q8:学生の取り組み方にも同様の傾向がみられ、専門性を重視することが示された。したがって、総合評価(Q9)には専門重視の傾向が内在していると思われる。

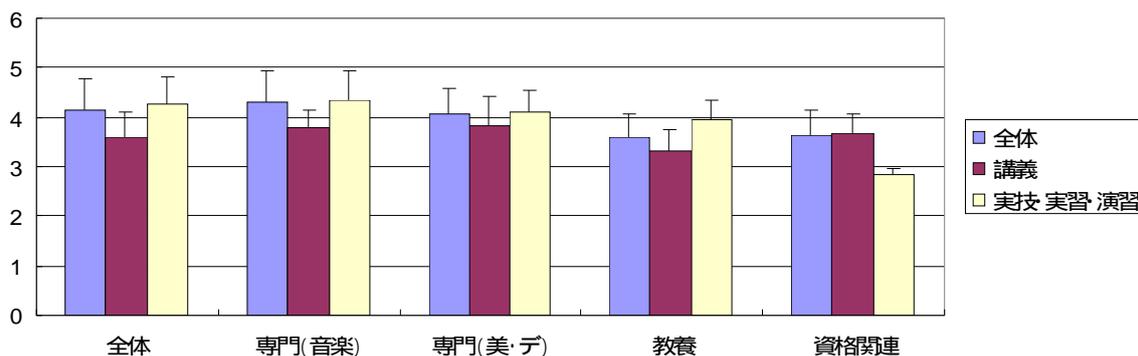
Q9 評価平均値

<この授業全般について総合的に評価してください(5段階評価 ちなみ5が最高) >

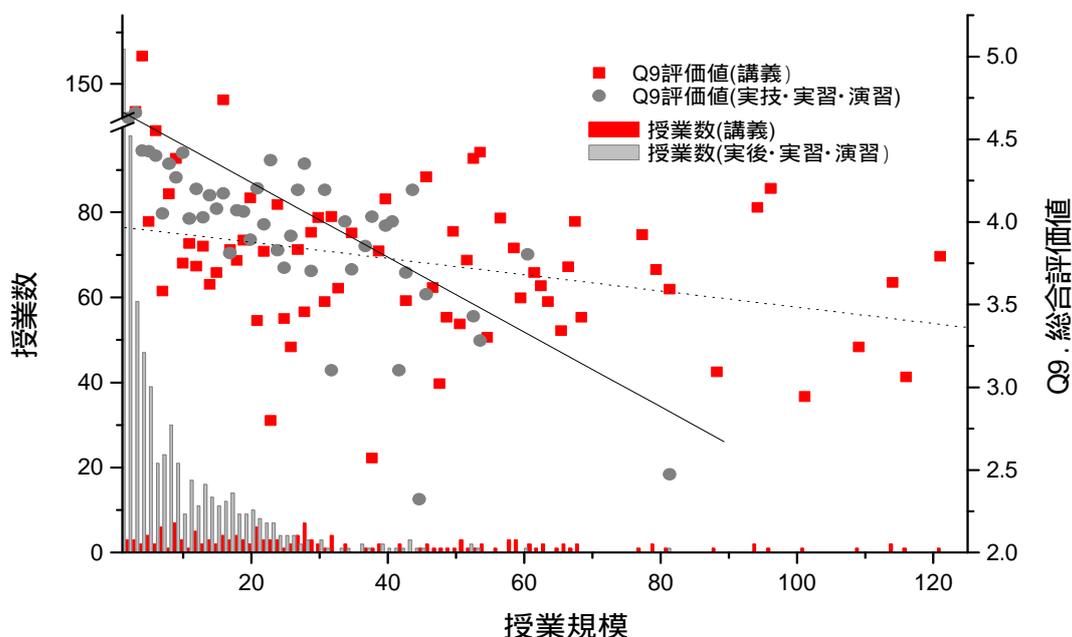


Q8 評価平均値

<あなたはこの授業を通して真剣に学ぶ努力していますか? >  
1. 低い(まったくそう思わない) 5. 高い(大変そう思う)



3) 授業規模(回答者数)と評価値(Q9)の関係をみると、評価は授業規模に反比例し、授業規模が大きくなるほど総合評価が低くなった。このことから、少人数授業は総合評価が高くなると考えられる。これは、単位認定権を持つ教員と学生の対等ではない関係で回答者が特定される可能性が高くなることが最大の理由であると考えられる。



### 3. 学部別傾向

各学部とも満足点が最高5.0ポイントの中で4.0ポイント近くあることがわかった。この4.0ポイントという高い得点が評価の別れ際ともなっていると判断できる。基本的な考察としてはこの5年間本学の授業は概ね学生に評価されていると判断してよいと考えられる。特に、Q5の担当教員の熱意が感じられたかに設問では4.0ポイントを超えていた。

しかしながら、他の設問では軒並み4.0ポイントを下回っていた。Q3の授業が分かりやすかったか、Q6の後輩に勧めたいですかの設問では個別の授業において得点が低いことが予想され、まだまだ教員側の工夫が必要である。

これらに対して教員側からよく聞かれる声には、きちんと授業を受けていない学生がいて、その学生がどうして授業評価できるのかという切実な思いがある。この点についてもこの調査ではある程度教員の声を実に反映している。

Q8のあなたはこの授業について真剣に学ぶ努力をしたかの設問には、4.0ポイントを下回っていることから学生側にも努力が必要であることがわかる。

この教員側と学生側の思いの違いこそが教員側がどのように授業を進めていくか、学生の興味を引き付ける授業はどうあるべきか教える側が今後とも試される。

2004年度後期から2008年度までの学部別での経年変化では、「音楽学部」では、過去5年間の平均は3学部の中でもっとも高いが、年度ごとに比較すると満足度にバラツキが見られた。「人間発達学部」は、2007年度からの2年間ではあるが、満足度がやや上昇した。「美術・デザイン学部」は、わずかではあるが、満足度のポイントは年々上昇傾向にあることが窺える。

#### 4. カリキュラム課程別傾向

毎年の授業評価アンケートで各教員の感想は、専門科目は評価が高いが、教養科目、教職・学芸員科目の評価は低いということであった。それはこの5年間の推移をみて殆どその傾向は変わっていない。これは本学が芸術系の大学であり、どうしても専門科目に重きがいくためである。しかしながら、本学の理念はしっかりした教養教育に裏づけされており、今後ともこの偏り傾向は注視し大学全体の教育の本筋をきちんと学生に伝えなければならない。

また、各学部におかれている教職課程・学芸員課程教育はより質の高い教員養成という大事な国策に沿うものであり今後ともしっかりと教育していかなければならない。

2004年度後期から2008年度までのカリキュラム別での経年変化では、「専門科目」では過去5年間の平均がもっとも高く、年度によりややバラツキがあるものの、4.0ポイント以上で推移している。

一方、「教養科目」については、ここ数年は満足度の平均が減少傾向にあり、カリキュラム課程のなかでは、直近の2008年度がもっとも低い結果となった。また、「教職・学芸員科目」は、「教養科目」同様満足度の平均は減少傾向が窺える。

#### 5. 授業形態別傾向

2004年度後期から2008年度までの学部別での経年変化では、「講義」では、過去5年間の平均はやや低く、全体的に経年変化もほぼ横ばいの傾向が窺える。「演習」は、過去5年間の平均は、授業形態別ではもっとも高い結果となった。

「実習」は、過去5年間の平均は、授業形態別ではもっとも低く、直近の2年間で見て低い結果となった。

「実技」は、過去5年間の平均は、授業形態別では2番目に高いが、2006年度と2007年度で著しくポイントが低くなっていったが、直近の2008年度では4.50ポイントと授業形態別でもっとも高い結果となり、バラツキが見られた。

ここでも講義、演習、実習、実技の4種類の比較からは講義より演習、実習、実技が平均的に満足度が高く、特に実習、実技が4.5ポイント近い評価になっており、本学の特徴を如実に表わしている。

ただし、音楽学部の実技については個人レッスン授業という形態であるため、学生にとっては評価が特定されやすいということから、必然的に評価が高くなる傾向にあることから、マンツーマンの授業をはじめとする実技科目のプライバシーの問題についても今後は評価方法を見直す必要がある。

#### 6. 今後の課題

##### 1) 少人数授業での学生のプライバシー確保

少人数授業は総合評価が高くなる傾向が見られた。これは、少人数授業に対する高い満足度の表れと受け取れるが、しかし、単位認定権を持つ教員と学生の対等ではない関係のなかで、“本音”が言えず高い評価とした可能性も否定できないと考えられる。学生がこうした問題の解決には、学生のプライバシー確保やアカデミック・ハラスメント防止等の周知徹底が極めて重要なポイントになると考えられる。

##### 2) FDとの連携

授業評価を行う意義は、評価結果をその後の授業運営に反映するように活用されることであり、そのためにはFDとの連携が極めて重要である。今後はFDとの連携を早急に検討する必要があり、次の検討項目として示す。

- ・教職員、学生に対する結果概要の公表との討論会実施。
- ・公開授業の実施。
- ・FD研修会の定期的な開催(情報機器の活用・教務及び学生指導研修報告・学生相談・ハラスメント防止など)。

## 第3章 調査結果の総括

### 経年変化から鑑みる調査項目の見直し

最近の各大学の調査項目は各学部の実情に合わせてより具体的な項目になってきている、ことや、学生実態調査とリンクした項目に変化してきているとのことである。

たとえば、「あなたは、専攻科目の練習や制作等で学内施設を有効に活用したか」や、「学内施設の利用に当たっては不足はなかったか」など、日常の学生生活における施設利用などの現状分析の視点である。

本学は、4学部ありその特質はそれぞれ違っている。出来る限り各学部の授業内容に即した設問や学生の学習意欲、学習時間、選択した専攻の満足度等の逆な問いかけ、また本学の教育は資質向上にどの程度寄与しているかも設問項目として重要な問いかけである。またその他本学の施設設備を学習向上のために有効利用しているか等今後新しい項目が考えられる。

経年変化から鑑みると、本学は芸術及び人間発達に関する大学ということもあり、授業形態別に見ると、講義系科目よりも実習や実技科目で満足度が高い傾向があった。カリキュラム課程別に見ても、専門科目の満足度が高い傾向は同じで、学部別では、美術・デザイン学部や音楽学部での満足度が高いことが窺える。

このような、本学の長を助長するためには、学生自身の「熱中度」を押し量る必要があるのではと考える。本学の独自性である実技科目に力点を置き、「あなたは、専攻科目に対して一層の探究心がわいたか。」や、講義系の科目であれば、「あなたは、この授業にどれくらいの成績評価を期待しますか。」などの尺度である。これらのポイントが低いようであれば、学生の授業に対する熱意の把握だけではなく、本学としてその指導方法や教育方針に何らかの問題があることが見えてくる可能性がある。

また、本学の4学部すべてに標準化できる調査項目の選定は大変難しく、本学共通の調査項目以外に、教員の関心に対応できるよう、「担当教員のオリジナル設問」を設ける方向も検討したい。

#### 調査項目案

##### (講義・演習科目用)

あなた自身について

1. あなたの授業出席割合はどれくらいですか
2. あなたのこの授業への予習・復習はどれくらいですか
3. あなたのこの取り組みは自己採点で何点くらいですか
4. あなたは授業内容を講義要項で確認しましたか

授業科目について

5. 授業内容は講義要項(シラバス)に即していましたか
6. 授業の開始・終了時間は適切でしたか
7. この授業で使用した教科書・プリントは有益でしたか

担当教員について

8. 教員の熱意や工夫は感じられましたか
9. 質問や提出物への対応は適切でしたか
10. 教員の説明やアドバイスは適切でしたか
11. 教員は学生に公平に対応していましたか

全体的評価について

12. この授業に一層の学習意欲がわきましたか
13. あなたはこの授業によって知識が広がりましたか
14. この授業の総合的な満足度を教えてください

オプション項目

15. 担当教員のオリジナル設問

##### (実技・実習科目用)

あなた自身について

1. あなたの授業出席割合はどれくらいですか
2. 専攻科目に対して練習または制作時間は
3. 選択した専攻に探究心をどのくらい持っていますか
4. この授業のために学内施設を利用しましたか

授業科目について

5. 授業内容は講義要項(シラバス)に即していましたか
6. 適切な時間数・回数で授業が行われていましたか
7. 授業で使用した教材は自分にとって有益でしたか

担当教員について

8. 教員の熱意や工夫は感じられましたか
9. 質問や提出物への対応は適切でしたか
10. 教員の指導(説明やアドバイス)は適切でしたか
11. 教員に専門性は感じられましたか

全体的評価について

12. この専攻科目に一層の創作意欲がわきましたか
13. この授業によってあなたの実技は向上しましたか
14. この授業の総合的な満足度を教えてください

オプション項目

15. 担当教員のオリジナル設問

2004年度～2008年度  
授業評価アンケート調査  
名古屋芸術大学

東キャンパス 〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地

西キャンパス 〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地

発行日 : 2009年 11月

調査・印刷 株式会社 教育ソフトウェア

〒192-0071 東京都八王子市八日町6-5

電話:042-655-3325

無断転載を禁じます。転載をご希望の方はご一報ください。